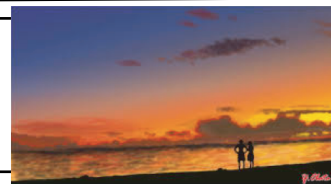


## 夏の 終わりに



### 夏の終わり 二学期の始まり ————— グリーンローズ理事長 後藤 進

みなさんの夏はいかがだったでしょうか？ 楽しいこといっぱい経験したでしょうか？ お家ばかりにいてつまらなかったなどと言う人はおられませんか？ お盆のお墓まいりはどうだったでしょうか？ 楽しいこと、心に残ることは、実はどこにでも転がっているのです。楽しいことを経験しようと車に乗ってどこかに向かう時、車の中でけんかしたことはありませんか？ ぶーぶー言っただけでも楽しくなかった、などということは忘れられない経験かも知れませんが、忘れてしまいたい面白くない経験と思います。小さい赤ちゃんの時のことを思い出すと、ただ一緒にいるだけでうれしいこともあります。お家の中でも、暑くなった部屋の温度を計ったり、水遊びをお庭やお風呂場で思いっきり遊ぶ、これも楽しいです。遊ぶこと、これは子どもだけでなく大人にも求められます。遊びの好きな人、遊ぶ人は幸せです。

このお盆に私は自分の村にお墓参りに行ってきました。秋田県雄勝郡東成瀬村滝ノ沢という所です。滝ノ沢の滝は同じ集落の山側に大きな「不動の滝」というのがあり、そこから来ているのです。帰りにその「不動の滝」に行ってきました。滝の水は雨の少なさとあいまってちょろちょろで残念でした。滝の上にはりっぱな細道がありましたが、私の学校の頃は、ぼろぼろの一本橋で、学校の帰り道、よく回り道をして一本橋を「神様どうぞ落とさないで下さい」などと言いながら渡ったのを覚えています。

集落にはグラウンドなどなく、夏は、川や小川や田んぼのくろ(畦)、すぐ後は山でその全てが遊び場でした。冬はソリ、スキー(ただ二枚の板)、スケート(ただ二本の厚い板)、こま回し、パッタ打ち、豆パッタ吹き、雪野に迷路作り、落とし穴、等、等、等。道具も場所も貧しく、そのままのものでしたが、ただひたすら遊んだという記憶が残っています。

しかし、こうした遊びを少し考えてみますと、その中には子どもの成長のあらゆるものが入っていることが分かります。手や足を使う、ものをよく見る、よく聞く、そこにあるものから工夫する、身体のバランス、揺らし、自分の身体を使う、皮膚の感覚、等々等。そしてこれらの遊びを通じたコミュニケーションと、貧しい集落にあらゆるものが揃っていました。

今、私たちの周りには、グラウンドもあり、公園もあり、あらゆる遊具やおもちゃが揃っています。底抜けの遊びにのめりこむような環境にはないような気がします。子どもの「不幸」なのかもしれません。でもそこをなんとか補ってやるのが大人の使命のように思います。子どもの楽しい、嬉しいという表情を、作り出していくことが、新しい世界を作っていくのではないのでしょうか。

夏から秋へ、この二学期をこうした思いの中で過ごしてみましよう。きっと新しい世界に出会えますよ。

### 積み重ね—送迎

人間の中に、は「積み重ね」というものがあります。子ども時代の「積み重ね」はより顕著です。一日一日の「積み重ね」は子どもの「成長」ともいえます。オリブ園のグループ支援や個別支援は、「積み重ね」を目標のひとつにしております。だったら毎日グループ支援・個別支援をしたらいいのでは？という意見もあるかもしれません。しかし、子どもの年齢、地域の幼稚園・保育園への在籍などで、毎日やる方がいいとは必ずしも言えないと私たちは思うようになりました。しかし、支援が「積み重ね」を目標のひとつにしているかぎり、子どもが忘れる程の期間をおくのは「積み重ね」を最初からまたくり返すことを意味します。そうした意味で、出来る限り、オリブ園との計画に沿ったかたちで支援を受けられることをお勧めします。

しかし、子どもの通園は、基本的に保護者と一緒なのですが、どうしてもご家族の何らかの用事で支援を受けたいのに受けられない場合、ご相談いただけたらと思います。送迎は基本的には行っていないのですが、こうした「積み重ね」のことを考えると、送迎可能な場合、お手伝いしたいと考えているものです。なお、この送迎に関する料金は発生しません。どうぞ「積み重ね」を!!